

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム静園
(ユニット名)	ユニット静雲
所在地 (県・市町村名)	南島原市口之津町乙3476
記入者名 (管理者)	
記入日	平成 20 年 1 月 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	スタッフ全員で考え、作成した理念であり、分かりやすく浸透している。目の届く場所に提示し、常に(業務中)心がけるようにしている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	いつでも見れる、分かりやすい場所に提示し、あえてスタッフ全員で読み上げるなどは行わないが、日常での声かけをスタッフ同士大切にし、理念に沿ったケア提供を出来るよう心掛け、人格の尊重に努めている。		新職員に対する教育・指導スタッフ同士の共通理解を深めるため、理念を通じての振り返りや学習に努める。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	家族へ入居前より相談・話し合いの中で運営理念を伝え説明を行っている。地域住民に対しては、分かりやすく見える場所への掲示は行っているが、その内容に対する反応は不明瞭である。		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	入居者と近隣へ出掛けた際、知人や友人などと出会った時には気軽にいつでも立ち寄って頂けるような声かけやアクションをとっている。近隣への距離が遠く日常的なふれあいとは言い難い。しかし、回覧板などが回ってきた際は、必ず挨拶を行うようにして、コミュニケーションを図るよう努めている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	地域活動として開催される催しなどは、入居者やスタッフへ声を掛け、出来る限りの参加は行っている。ただし、入居者の身体的状況に応じて、参加出来るものと出来ないものがあり、頻繁な参加とは言い難い。		身体能力に応じて参加出来る方は個人個人でもできれば支援していきたい。また、地域発信されている場への参加だけではなく、グループホームからの発信を働きかけていく。地域イベントに対して常にアンテナを張り早めの対応・計画が出来る姿勢をとる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	現時点で地域住民の理解としては、「高齢者の施設」の枠のみになっており、地域高齢者とのコミュニケーションはあっても、役立つ発信源とまでは至っていない。今後はホームから提供できる取り組みを検討していく必要がある。		認知症高齢者を中心とした、地域での勉強会(懇談会や相談会など)窓口てきな活動計画を前向きに検討していく
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	評価に対し、スタッフ全員が振り返りと、取り組みに対する具体策を考えていき、会議・面接を中心に共通理解を深めていくよう工夫している。		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	会議内容は全体会議時等に伝達しているが会議自体が報告止まりのところがあり、一方通行になりがち。		さらに多くの家族にも参加を呼びかけ、会議以外でも参加出来る機会をつくりたい。ニーズを聞き出し、発展的な話し合いの場をつくるため、企画等を提供していく。
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	主催の勉強会や会議等には積極的に参加を行い、新しい情報やサービスを提供出来るよう努めている。また、こちらから疑問や行ってほしい取り組み等は伝えている。		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	スタッフ全体の理解度は個々に差がある現状。実態として、不十分と考える。		スタッフへ権利擁護についての勉強する機軸をつくって行き、参加出来るようにしていく。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	虐待としての実態は事実ない。実際のケアに問題はないか、それぞれケースカンファレンスや会議でみんなで考えるように取り組んでいる。		日々のケアで言葉の暴力や表情、行動など、本当に入居者が中心となったケアになっているか、間違ったケアがなされていないか、話し合いの機会をつくる(カンファ時など)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約を結ぶ際は、介護支援専門員をはじめとし、各専門分野を中心とした説明をおこなっており、いつでも利用者・家族の相談にのれる体制をとっている。</p>		<p>口頭だけではなく、同意書ならびに誓約書には十分に説明書きを添えてお渡ししている。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>不満苦情については契約時説明を行っている。無理強いすることなく、いつでも連絡がとれるように、玄関先に連絡機関を提示し、外部との交流を遮断しないようにしている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回、手紙での報告をはじめに、その都度必要時には個々の健康状態・生活ぶりを報告している。金銭管理については、面会時などを活用して、必要書類を確認して頂いている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱の設置を行い、いつでも自由に無記名で意見できるようにしている。回収率としては低いため、面会時などを利用し、コミュニケーションをとり、聞くようにしている。また、第三者他専門機関の連絡先を掲示している。</p>		<p>意見などをだしやすよう、スタッフ個々に意識をもって家族とのコミュニケーションを密にしている。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>フロア会議、全体会議を通じて、話し合いの機会をつくり工夫している。身体面・精神面でのフォローアップを、看護師を通し介入させている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>ユニットごとに准看護師を配置し、常勤で看護師も勤務している。緊急時の対応マニュアル等も作成しており、いかなる場合でも連絡・相談が出来る体制に努めている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>なじみの顔が出来る限り急に変化しないよう、配慮している。スタッフ全体で、納得できる話し合いを行い、利用者ならびに家族が不安にならないよう努めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月ケア研究会の際は事前に声かけを行い、出来る限り積極的に参加するよう呼びかけをしている。また、提示も分かりやすく行っている。		資格取得に向けて、各々がスキルアップに取り組めるような機会を設けたい。(呼びかけをおこなっていく)
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	1ヶ月に1回ケア研究会や医療連携を通じて、ネットワークづくりを行っている。		他施設との合同勉強会や、行事をもうけて交流を行いたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	親睦会の他、運営者自身からスタッフ個々へ声かけ・ねぎらいの言葉があり、顔を合わせ日常会話から話しやすい雰囲気づくりに心掛けている。また、会議等においては、毎回、司会進行・書記を交代させ、全員が意見を出しやすい環境を工夫している。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	シフト作成以前に、休日希望や本人の体調等を事前に届け出してもらっている。その意見を出来る限り配慮しながら一人一人の負担がないよう努力している。		資格や行きたい希望のある学習会などに積極的に参加出来る機会をつくる。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前、相談にこられた時点から入居を希望される時点における経過とともに必要な情報を聞きながら、家族・本人共面談を行っている。また、かかりつけ医があれば、密な連絡をとっていく。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	各専門分野において、事前オリエンテーション等おこない、事前に話し合いの機会をつくっている。面会にこられる際など、こちらからおもむき、会話の中から困っていることや、不安はないか、言いやすい雰囲気をつくるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自宅(入院先)・御家族との面談、見学時の状況を記録に残し、スタッフへ伝達し徐々になれていって頂けるような支援。 1週間内に再度スタッフと情報交換を行い、計画している。		入居相談前よりスタッフ間へ伝達し、情報提供行っていくことで、更には確かなサービスを心掛けて行きたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	馴染みの日用品を使っていただいたり、制限なく家族にはなるべく頻回に面会をして頂けるよう、納得して頂きながら、雰囲気馴染む環境を作っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作りや、昔から行っていた日常生活行動など、個々に情報をもとに、ともに行ったり、教えて頂けるような雰囲気に取り組んでいる。		昔から住まれているその地域の方々に、時代時代の歴史、思い出話などを学ぶ機会を作りたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	1ヶ月に1回の手紙のやりとり、電話連絡・行事参加のお知らせなどでコミュニケーションをとりその時々様子を伝えるようにしている。		今後は思い出の写真等も同封したい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	施設外へでる際(外泊や買い物、病院受診、など)必ずしもスタッフではなく、御家族の負担にならない程度に共に過ごして頂く機会をつくっている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容院やお寺のお参り、買い物など本人が望まれる場所は、これまで同様の生活パターンで出来る限り行えるよう、定期的に行っている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事やおやつの時間、本人の状況に応じながら食卓を囲み、みんなの顔がみれるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	終了後も家族などから連絡や頂き物などあり、その都度コミュニケーションをとり、有効な関係が築かれている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスや、記録などでスタッフ間の情報共有を図り、本当に個人にあったものか、その方が望むものかを、定期的に話し合っている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人とコミュニケーションの中から、得られた情報や、ケアを行った際の表情・行動を細かく記入し、スタッフ間で共有するようにしている。また、別に申し送りノートを作成し、特に重要なことはタイムリーに把握出来るようにしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	健康状態の記録・生活の記録など、個々に毎日記入している。記録は必ず全スタッフ把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的にスタッフ間でカンファレンスを活用し話し合った内容を家人には面会時、入居者はその都度(理解力に応じ)工夫し伝えている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直し時カンファレンスを行い話し合いの機会を設けている。家人にはその都度連絡を行っている。また、面会時などを利用し、計画を開示し、意見や要望を伺うようにしている。		スタッフ間からの積極適な意見を求め担当者が中心となった計画や経過発表をもうけ、スタッフ個々も質を高めるケアの中心にある自覚を形成していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の記録を含め、カンファレンス用紙にも内容と具体策を作成し、計画に基づいた実践が行えている。		(例)入浴を拒まれる入居者に対し、フロア会議やカンファレンス等で「どうしたら気持ちよく入浴が出来るのか」をスタッフ間で話し合い、入浴時間にこだわらない、本人の調子に合わせた入浴法へと変更した。実際、喜んで入浴が行えるようになった。。。今後もこのような実例を増やせるようにしたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	月2度の御法話や保育園児との行事参加など、事業所の特色を活かした支援に努めている。		保育園などの行事参加にとどまらず、受け身的な姿勢から、こちら側から提供できるようなイベントづくりやアクションをおこし、一緒に作り上げる行事を行いたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防訓練、中学生の1日体験等の受け入れなど、交流を行えるような呼びかけを行っている。		小・中・高学生など教育機関とコミュニケーションをとり、協力(交流)出来る体制をつくりたい。(いつでも立ち寄れる場所)また、文化作品への取り組みを通じて、地域への展示参加を行いたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居相談の際や、病院、看護師など常に連絡体制はある。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	電話連絡や、直接分からない事があれば、そのつど相談している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護師を中心に、これまでのかかりつけ医・適切な医療機関との関係性を築き、受診出来るようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ほとんどの入居者がこれまでのかかりつけ医に受診しており、認知症の経過はモニタリング出来ている。また、その都度助言や相談を行っている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	24時間体制で、常勤看護師が携わり、支援・ケアを行っている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時から治療期間や内容など、経過を病棟医師や看護師から情報聴取し、連携をとることで、有効に行えている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時、説明を行い納得して頂いた時点で同意書等で行っている。また、入居時だけでなく、病状によってその都度、看護師連携のもと、家族と医療機関をふくめて話し合っている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	かかりつけ医への方針や見極めの確認はおこなえているが、スタッフ間での重度化に対する意識は低い。今後、認識を深め、理解を得られる体制造りが必要。		重度化・終末期における知識の共有や説明会などをおこない、スタッフ間での意見交換をおこなっていく。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	医療者や市町村関連機関とも話し合いを入居前より行い、トラブルや不安を出来る限り少なくするようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>大切な書類・過去の記録など、個人情報に関わるものは事務所で保管している。理念に基づき、スタッフ同士でも声かけを行い、実践している。</p>	<p>記録時所定の位置へ戻す声かけ・個人情報を取り扱っている意識をもってもらうために、声かけを行っている。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>日頃よりスタッフ間で互いに話し合い、カンファレンス等で声のかけ方や、本当に希望されているケアを行っているのか、振り返りを行っている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>日々の生活の中で、入居者からの要望があった際など、出来る限り優先し、ご本人の希望に沿える工夫を行っている。 (例)外出したい 入浴をやめて外出へ変更等。。)</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>以前より行きつけの美容院へ出向くようにしている。また、外出の難しい方などは、出張して頂き身だしなみを整える工夫をしている。出来る限り本人の好んだ服を、着用するようにしており、介護度にあつたおしゃれを行っていると思う。</p>	<p>ボランティアでエステを行って頂いた際、入居者にかなり好評であったため、継続して今後も行えるような、工夫を行いたい。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>以前、主婦であった情報などから食事の下ごしらえを手伝って頂いたり、食事中も楽しめるよう、同じ食卓をかこむように工夫している。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>家族・本人の情報をもとに、嗜好品を聞き、おやつと一緒に買いにいたり、家族がお土産でもってくるなど、基本的には自由である。行動パターンを見ながら、タバコも吸われる方は声かけしている。ただし、既往などによっては、過剰にならないよう制限の支援もおこなっている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンが分かるように、記録でモニタリングしている。デリケートな部分でもあるため、家族等と話し合いながら、オムツ等相談している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日設定はあるが、本人の状況にあわせ、好まれない時などはタイミングをはかりながら、話し合い出来るだけ楽しめる工夫をしている。「ゆず湯」など時によっては季節感のあるものを使用している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	24時間体制で、個々の見守りを行っている。出来る限り、眠剤に頼らない自然な入眠を心掛けている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カンファレンスの時、スタッフ全員で情報を基に、出来そうなこと、やりたいと思っていることを話し合い、本人の無理ない範囲で行って頂けるよう支援している。(主婦 野菜も下ごしらえや昔ながらのお菓子の作り方を教わる、散歩など)		花壇や野菜作りなど、育てる楽しみの味わえる取り組みを企画したい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と本人の要望に沿って支援している。金銭管理は書類を作成し、間違いがないよう、厳重に扱っている。また、月に数回金銭手帳を家族と確認している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車椅子での散歩や、気が向いたら出掛けられる方など、時々に応じて付き添いながら出掛ける。また、全員でプチ旅行気分を味わえるよう、大型車で出掛ける機会をつくるなど、工夫している。ただし、寒いときや、入居者の状況によって危険のある時は外出出来ない(入居者の気分に沿えないときもある)		スタッフで考える外出行事以外、入居者から希望のある外出を優先したレクリエーションを主体にしていきたい。(例) 菊の展示会、貝掘り、家族も一緒に洋服買い物)
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者個人からの希望する発言が以前は少なく思えたが、徐々にではあるが、「 したい」等の声があがるようになってきている。また、スタッフ間も出来る限り、そのような希望があれば、計画し家族の協力が得られるようにしている		左記のような機会・場面をふやせるよう実例を増やしていく。日常会話などから訴える些細な要望を伝えるとき、それを受け流さず実践できる働きかけを作っていく。(発言しやすい環境作り)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の能力に応じて、支援している。居室内での電話も可能。手紙に関しては、入居者自ら行われる機会は少なく感じる。今後、電話だけではなく、手紙なども楽しみながら連絡を待つ機会をつくる必要がある。		どうしても手紙を書く事に疎遠となりがちであるため、そのような機会をつくる。(ただし、身体能力等配慮が必要)
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	町や病院、散歩など外出先で出会った際はスタッフ間からも気軽に立ち寄って頂けるよう、声をかけている。また、来客時玄関での挨拶、お茶やお菓子など個人の居室でも楽しめるよう時間をつくり(制限はない)配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、現在、事例はない。実際のケア場面にそのような状況はないが、カンファレンス時スタッフ間で話し合うようにしており、拘束しないケアの実践に取り組んでいる。また、緊急時等やむを得ない状況の際、間違いがないよう必要書類、報告・相談経路の記載した用紙がある。		身体拘束に関しての正しい知識と尊厳をもった支援についてスタッフ全員が理解できるよう学習していく。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることによる弊害はスタッフ間と話し合い、ケアで補える対策を考えるようにしている。訪問者などが分かるように玄関ブザーを設置し安全対策もおこなっている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	自由に入出入りできるフロアで安全確認を行いながら、様子がおかしかったり部屋から出てこられない事などあれば、さりげなく声をかけるなど配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人一人の状況に応じ、カンファレンスなどで話し合い、保管場所や管理方法をスタッフが周知出来るようにしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	消毒薬や危険物は鍵のかかる場所へ保管し、火気は常時点検を行うシステムをつくっている。また、インシデント・ヒアリハットどちらも書類提出し、振り返りを行い評価し、具体的に対策を取り組める様になっている。また各マニュアルを作成し、誰しもが対応出来るようにしたい。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	以前は定期的に行う機会が少なかったが、救急救命士等の指導を交え、施設内での学習できる機会を増やしている。また、マニュアルを分かりやすく実際の場面を想定して作成している。		左記を定期的に行い、実践に備える。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練を年2回行っている。(昨年は3月と10月)訓練は行っているが、近隣に民家が少ないため、応援要請などとなれば、不安がないとは言い難い。		夜間の勤務を想定した訓練。地域の協力・呼びかけを行っていく。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時などの情報から転倒リスクや事故などの緊急対応など細かく事前に説明を行っている。入居中の変化は事細かく家族へ連絡し、記録に残すようにしている。		リスクマネジメントへの理解を深めるため学習・勉強会を行う。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	看護師を中心に毎日の身体チェックを行い、アドバイスをおこなっている。また夜間なども、緊急を要する場合は連絡し体調管理を行っている。		重度化や看取り介護など(高度な介護を必要とする場合の)ケアや対応などを話し合う。また、入居者の事例をもとに関連した身体能力(病状など含め)勉強会をおこなう。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者全員の内服が確実に管理できるよう、記録とともに処方箋を保管し、正確に配薬できるよう工夫している。		入居者に関連した内服の勉強会。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給や食物繊維などバランスを考えながら食事ケアに取り組んでいる。また、運動や腹部マッサージなど指導し、出来る限り、内服に頼らない排便コントロールが行えるよう説明している。しかし、入居者の身体状況にもより、便秘がちな入居者もあるため、内服も併用しながら実施している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔洗浄の呼びかけと、介助を行っている。また入れ歯などは衛生面に十分配慮し、週1回は洗浄剤で消毒を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立メニューのアドバイスをもらい、バランスを考えた食事に取り組んでいる。食事に好き嫌いがある場合、不足しないよう、食べやすいもので補うなどの工夫を行っている。また、食事量もチェックを行っている。水分も、毎回量を記載するようにしており、脱水等ないようにチェックしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	対応マニュアルを施設独自に作成し、報告経路や、対応方法など詳細に記載している。また週1回施設内の消毒や日頃のうがい・手洗いの基礎を徹底出来るよう、指導している。		感染症の理解を高め、実践できるような学習会を行う。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理道具は次亜塩素酸ナトリウムでの消毒、洗浄を行い、食材も十分流水で洗うなどして調理している。また、取り置きなどせず、毎食調理し、期限もチェックしたうえで保存している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	利用者が生けてくださった花など季節感をもった工夫を行っている。手すりを設置しており、安全性も配慮し、玄関先の坂道などは危険がないよう、声かけや介助を行うようにしている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除を行い、フロアには季節感を感じていただくため花を飾ったり、手作りのポスター・カレンダーや思い出の写真を貼り、馴染みやすい生活環境をつくっている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには畳やソファを配置してくつろげる場所をつくっている。また、居室の出入りは制限せず、好きな時、好きな場所でくつろげるようにしている。		居間やホール空間をよりくつろげる馴染みの場に工夫したい(みんなの集いの場)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋のレイアウトは家族と本人でほぼ行って頂きスタッフは手伝うと言った状況。また、家具など馴染みのものを持ってきて頂き制限はしていない。(例)畳・布団・仏壇など		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	特に決めた時間に換気をするなどないが、本人の好まれる時や掃除機をかけるときなど、状況に応じて行うように心掛けている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常支援で出来そうな面は一緒にお手伝いして頂く形でおこなっている。自由になるべく安全に歩けるよう、手すりを設置し全館バリアフリーになっている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	会話などコミュニケーションの中で、困ったこと(対応方法など)あれば、スタッフで話し合い出来る限り失敗・混乱を防ぐよう対策を考えるようにしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	居室のベランダに干し柿や、小さい洗濯物、花、など自由に使っている。一緒に玄関先の草とりをおこなったり、以前行っていた環境に近いケアを心掛けるようにしている。		玄関・外回りのスペースを利用して、花や野菜などの世話が出来る場をつくる。

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当施設はお寺が母体であり、関連して保育園の園児たちとも関わりやすい環境にある。毎月1～2回外部からの御法話をみんなできいたり、希望されれば外部のお寺行事まで参加したりと、「命・生き活きたした生涯を自然のままに」過ごして頂けるようなケアを提供している。また、自然環境に恵まれており、居室からは絶景の白浜海岸周辺が広がり、ゆっくりとした時間を過ごせる。このような環境のなか、『いつまでも自分らしく 心健やかに 笑顔ですごす 楽しいホーム』を理念に、スタッフ全員が主役である入居者を中心にしたケアの実践に取り組んでいる。